JASE
現代性教育研究ジャーナル
MONTHLY JOURNAL of SEX EDUCATION TODAY

2018年
No. 91
2018年10月15日（毎月15日）発行

日本性教育協会
THE JAPANESE ASSOCIATION FOR SEX EDUCATION

〒112-0002 東京都文京区小石川2-3-23 春日尚学ビル Tel.03-6801-9307 Mail info_jase@faje.or.jp URL http://www.jase.faje.or.jp 発行人 石川哲也 編集人 中山博邦
© JASE. 2018 All Rights Reserved. 本ホームページに掲載している文章、写真等すべてのコンテンツの無断複写・転載を禁じます。

contents

第15回アジア・オセアニア性科学連合国際会議報告 … 1
SEE性教育アカデミー2018報告 … 7
思いこみのめがね⑦ … 12
多様な性のゆくえ⑱ … 13
性教育の現場を訪ねて⑲ … 14
今月のブックガイド … 16
JASEインフォメーション … 17

■第15回アジア・オセアニア性科学連合国際会議報告
（The 15th Congress of Asia-Oceania Federation for Sexology）

性の健康――良質な生活のために
（Sexual Health – For Quality Life）

明治大学文学部心理社会学科臨床心理学専攻准教授 佐々木 掌子

はじめに

去る2018年8月17日から19日、インドのチェンナイにあるハイアット・リージェンシー・チェンナイにてアジア・オセアニア性科学連合（Asia-Oceania Federation for Sexology; AOFS）の第15回大会が開催された。

チェンナイは、デリー、ムンバイ、コルカタに次ぎ、インド第4の都市として知られ、ダイバーシティを推奨するGoogle社の現CEO、サンダー・ピチャイ氏の故郷でもある。「インド＝IT」のステレオタイプは、終始スマートフォンを触り続ける現地の学会参加者の様子で一瞬強化されたものの、学会場から一歩出ると、灼熱の太陽の下で子どもを抱え、ハエを払いながら生魚を売る女性や、道端に車座になって何をするでもなく数名で話し込む年配男性の、のんびりした姿が目に飛び込んでくることで、断ち切られる。チェンナイ社会での置かれた状況によって、ITの距離感に相当な違いが生じているように感じられた。

カーパーレーシュワラ寺院前で供花を売る店員
チェンナイの大多数がヒンズー教徒

さて、1990年に香港で開催されたことに端を発する15回目の今大会の参加者は283名。インドからは239名、次いで日本からは18名の参加があった。そのほか、オーストラリアとインドネシアから各7名ずつが参加し、以下、バングラディッシュ、エジプト、フィンランド、フランス、マレーシア、南アフリカ、韓国、アメリカから性科学に関心を寄せる人々が参集

した。

なお、開催されない年は、世界性の健康学会（WAS）が行われるが、インドはその世界大会をホストした経験もある国である。その第７回大会は、インドの性科学のマイルストーンとなったという。時代は 1985 年。当時のプログラムの演者には、John Money（心理学）、John Bancroft（精神医学）、Gorm Wagner（泌尿器科学）、Patricia Schiller（法学／心理学）、June Reinisch（心理学）、ウェストコートのマスターズ＆ジョンソンともいわれた William Hartman（社会学）＆ Marilyn Fithian など錚々たる性科学者たちの顔ぶれが並ぶ。それ以降、インドの性科学はどの道に進んだのか、というと「参加者のほとんどが医師であり、さらに男性であり、男性の性機能障害がメインテーマである」というアジアの性科学会の流れは今回も同様であった。

一方で、本大会は、Council of Sex Education and Parenthood International（CSEPI）の第 34 回を数える国内学会との同時開催でもあった。今大会長である Narayana Reddy 氏は、薬学の専門家でありながら性教育と家族支援に力を入れてきたまさに「性科学」という学際の名にふさわしい人物である。このように医学と教育学の連携が図られることは性科学の本来の姿であると思うが、学会側の都合でスケジュールが急に変更され、聴きたかった性教育シンポジウムが知らないうちに終わっていたという事態にも見舞われた。アブストラクトブックが最終日に配布されるというところからも、今学会大会委員会の準備不足は否めない。参加者もぬるい態度で臨んでおり、１日目の昼前にオーストラリアの Christopher Fox 氏が How to write an abstract とレクチャーしたのには驚いた。どうやらあまりにも今大会のアブストラクトの書き方が「なってない」ため学会側がこのセッションを設けたというのだ。

メイン会場の様子

いくつかのシンポジウム

以下は、筆者が聴いた演題を紹介する。筆者の背景は心理学であるため、基礎医学系の演題は追っていないことを予めご了承いただきたい。

【プレナリーレクチャー】

本大会のテーマは、「性の健康――良質な生活のために（Sexual Health – For Quality Life）」である。オープニングセレモニーでは、学会の無事を祈り、荘厳で敬虔な調べが斉唱され、その後、灯をともして祈る儀式が執り行われた。日本からも日本性科学会会長の大川玲子氏が蓮花を水に浮かべた。

プレナリーレクチャーは３つ、いずれも過去のアジア・オセアニア性科学連合の大会長が講演する形態となっていた。

オープニングセレモニーで学会の成功を祈る学会理事ら

一つ目がムンバイ大会での大会長、Prakash Kothari 氏による「性的な懸念や不安に対する薬物療法に頼らないアプローチ」と題した講演である。特に勃起不安を語る患者と対峙すると臨床医はとかく薬で対応したがるが、不安の所在や本人の考える原因などを丁寧に問診することの大切さについてユーモアを交え講義をした。

二つ目が韓国大会での大会長 Nam Cheol Park 氏による「キスという限りなく秘められた不思議な働き」と題した講演。キスをめぐる歴史、分類、価値観の違いなどを紹介した。インドでは、公共の場でのキスが違法とされ３か月以下の禁固刑か罰金（あるいは両方）が科されるという。そうした国が開催した学会で Park 氏が強調していたのは、キスをすることによる健康効果であり、寿命が延びることも含め、キスを神話で終わらせず科学として取り扱うべきことを語った。

三つ目がブリスベン大会での大会長、Margaret Redelman 氏による「ペニスに対するインド女性の認識」と題した講演であった。進行中の研究ということで未だ 49 名の回答しか得られていないということであったが、オーストラリアに在住するインド人女性の 74% もが太さや長さなど「サイズが重要」と回答しており、パートナーのペニスが短すぎると思っている女性は 26.7% いた。ただしサイズがそのまま性的満足に直結するのではなく、パートナーとの関係性への満足さが重要であるようだった。圧倒的に男性泌尿器科医の多い今大会において、白人女性のこのような講演は、当のインド人男性泌尿器科医たちにとって、どのように受け止められたであろうか。

【地元のセクシュアル・マイノリティ活動家によるシンポジウム】

出国前、インド渡航のためのビザ申請書を書いていると性別欄に「トランスジェンダー」の選択肢があることに気がついた。インド社会はずいぶんと進んでいるのだなあと感慨深かったが、乗り継ぎのムンバイ空港での保安検査場で、その意味が分かった。手荷物検査がジェンダー別に行われるからである。保安検査員が服の上から身体に触れて不審物を隠し持っていないかチェックをするため、トランスジェンダーであることをビザで明記しなければ問題になるということなのだろう。

筆者が最も今大会で楽しみにしていたのが「セクシュアル・マイノリティーズ：Face to Face session」というシンポジウムである。シンポジウムを聞き終えた後の印象としては、地元チェンナイの活動家たちが今大会に参加する医者たちを「啓蒙する場」なのだろうということであった。モデレーターの Sunil Menon 氏は、ゲイであることをオープンにしたチェンナイのファッションデザイナーであるだけでなく、HIV/AIDS 活動にも精力的にかかわり、後進を育てているインドの著名人である。彼も含め、登壇した活動家 3 名とも英語が堪能なので、自分たちの置かれた状況を欧米との比較で捉えているような発言が多かった。たとえば、「自分たちのセクシュアリティは、欧米と違って自分だけのものではない。家族問題となる。思春期になったら家を出ていくアメリカとは違う」という発言。LGBT が家族問題となるのは欧米も、そして日本も変わらない。だが、そこには質の違いがあ

右から着席順に、ゲイの活動家、トランスジェンダーの教師、ジェンダー・クィアの活動家、立位はモデレーターの Sunil Menon 氏。

ることがうかがえる。そこに影を落とす社会状況の一つとして、〈医療〉があるのだ。

衝撃だった。インド精神神経学会は、今年 7 月に（すなわち学会開催の 1 か月前に）、「同性愛を精神疾患リストから外した」というのだ。アメリカ精神神経学会は 1987 年、日本精神神経学会では 1995 年に精神疾患診断リストから外していた同性愛が、インドではつい 1 か月前まで精神疾患だったのである。当事者が医者を啓蒙しなくてはと思うのも無理はない。実際、壇上の 20 代とおぼしきゲイ男性は、精神病院に入院させられ電気ショック療法を受けていた。医者もまた“見方を変える時だ”と思っているのだろう。そういうセッションだったのである。

しかし、インドの医者全体が変わっていくにはまだまだ時間がかかることが実感させられた。質疑応答で、インド人医師がマイクの前に立ち、壇上の活動家たちのセクシュアリティを料理に喩え「好みの問題を変えられないのはおかしい」と Face to Face で非難したのである。この学会は、単なる医学会ではない。セクシュアリティの学会である。性の健康に関わる立場の医師がこの見解であれば、インドではなおも「同性愛だとわかったら治療」はスタンダードのままだ。

帰国後、9 月 2 日に「同性間の性行為は“違憲”ではない」というインドの最高裁判決が下ったという国際ニュースが流れてきた。医も法も変わったばかりのインド。今後の展開を注視したい。

【Asexual（エイセクシュアル）】

デリーの医師で公衆衛生の専門家 Pragati Singh 氏は、エイセクシュアルの団体、エイス（ACE）を立ち上げている。名刺をもらいに行くと裏面がトランプのスペードのエースのデザインだった。一般的に

Ace はこうしたトランプのエースやテニスのサービス・エースなどを指すが、英語圏のスラングとして「セックスに興味がない人」というものがある。これは「Asexual（無性愛）」を略したもので、この A は打ち消しの意のある接頭語である。彼女の発表は、こうした世間のエイセクシュアルのイメージに誤解があるとして、インターネット調査をしたものだった。特に彼女が強調していたのは、セックスに否定的な態度のエイセクシュアルの人はむしろ少なく（6％）、4割程度が性欲は低くないと回答しているということである。そして7割のエイセクシュアルの人たちが、性欲はあっても、性的ではない恋愛関係を求めているというのである。彼女の主張は、エイセクシュアルとノンセクシュアルは違うというものであった。

女性は 25 歳までに男性は 30 歳までに結婚をしなければならないというプレッシャーが強いというインド。その社会で思春期に誰にも性的な魅力を感じない若者はどれだけ混乱することか。そして結婚後は、パートナーを怒らせ、そして望まないセックスが行われる。彼女の問題意識はそういったところにあった。

ただし、Singh 氏の調査は、アメリカ人 104 名とインド人 81 名の混合データで、インド人の協力者も英語が読める人たちである。サリーを着て発表するインド人女性が多い中、彼女はスーツを着こなしており、インドのデータというよりは欧米化されたエイセクシュアルの人たちのデータという印象も受けた。

インドとセクシュアリティ

インドといえばカーマスートラや寺院におけるエロスが著名である。本大会でもカーマスートラを編んだ著者こそ、マスターズ＆ジョンソンのセンセート・フォーカス・テクニックの原理の創始者だと讃える講演や、インドには、カジュラホだけでなくエロティックな彫像のあるヒンズー寺院がいくつもあり、時代や地域的な状況によってこうした寺院の成立背景が異なるという講演など、古代インドの豊かなセクシュアリティについて勉強することができた。では、現代インドはどうなのであろう。

【性暴力に対する今大会の姿勢】

日本からはレクチャーという形で大川玲子氏が「150 名の性虐待被害の子どもたちの臨床観察からのリアリティ」と題し、氏のかかわる性暴力ワンストップ支援センター「ちさと」でのデータを紹介した。加害者のほとんどが親族（特に実父、継父）である。これは日本だけでなく、世界中で非常に切実な問題だが、インドからの演題で、子どもの性虐待をテーマとするものは一切なかった。かろうじてあったのが「夫婦間でのレイプは成立するか？」というパネルセッションなのである。2014 年、デリー裁判所は「夫婦間であればたとえ強制だとしてもレイプではない」という判決を下した。そのような国で、妻以上に立場の弱い女児が声を上げることができるのだろうか？　インドの性科学者が取り組むべき課題が山積していることを思わされた。

と、綴ったところで実は、毛色の違う性暴力に関するセッションが企画されていたということを報告しなければならない。それは「DV 裁判上演――離婚によって救われる夫――」というものである。舞台には3名のインド人男性。一人は裁判官役、一人は検察役、そして最後が被告である妻の弁護士役である。妻から暴力を受けている夫が離婚を申し立て、妻がそれを拒んでいるという裁判状況が披露された。インド人男性で埋め尽くされる会場。「妻に殴られているなんて言えないものだ」、「もはや男性のほうが弱いのだ」という検察役の言葉に、会場の男性が笑いで反応するのがやりきれない。男性の被害に焦点が当たるのはとても重要なことだ。だが女性の被害のセッション（「夫婦間でのレイプは成立するか？」というパネルセッション）を第二会場で扱い、男性の被害をメイン会場で扱う本大会の男性至上主義のありように筆者は閉口した。

【Cultural Program】

二日目の夜は、ウェルカム・レセプションが開かれ、アジア・オセアニアの性科学に貢献した性科学者に王冠、ショール、盾が贈呈されるセレモニーが執り行われた。日本からは、大川玲子氏が受け取った。その後、地元チェンナイのミュージシャンとダンサーが音楽とダンスで学会参加者を歓待してくれた。

南インドの古代パーカッション演奏者 Ghatam Karthick 氏が Mac パソコンと壺、鼓を使ったトランスミュージックを奏でたあと、社会的な問題を振付し

アジア・オセアニア性科学に貢献したとして盾が贈呈された大川玲子氏、左は今大会長の Narayana Reddy 氏

チェンナイで活躍するトランスダンサー Ponni 氏（中央）

舞う地元チェンナイのプロダンサーたちが、踊りを披露してくれた。その演題の一つでは、トランスダンサーである Ponni 氏がトランスジェンダーを題材に素晴らしい舞を見せてくれた。

最初、ダンスを習うことすら拒絶されていた Ponni 氏。今では、子どもたちにダンスを教えるほど周囲からの信頼を受けている。彼女のストーリーは、Youtube でも見ることができる（Story of a transwoman who teaches bharatanatyam to underprivileged children. https://www.youtube.com/watch?v=h-7DJJ8Sveyg）。

日本からの口頭発表

【各口頭発表】

日本からは 7 名の研究者が口頭発表を行った。以下にタイトルを掲載する。「性犯罪の刑法改正とその後の犯罪傾向（内山絢子氏）」、「大阪の歓楽街はどのように異性装男性とそのコミュニティを包摂しうるのか？（石井由香理氏）」、「自然流産あるいは人工妊娠中絶を経験した人の性機能（早乙女智子氏）」、「何故大阪では公的なシェルターを使用する DV 被害者数が減ったのか？（山中京子氏）」、「過去 20 年におけるカップル間セックスの不活性と性産業の発展に関する歴史研究（平山満紀氏）」、「日本における小児期早期の性別移行の事例（佐々木掌子）」。

【セックスレス大国、ニッポン】

本大会で非常に〈日本らしい〉発表をしたのが Alice L. Pacher 氏である。氏は、明治大学の大学院博士課程の大学院生で前述の平山氏の指導生だ。母は日本人、父がオーストリア人というルーツのある彼女はオーストリアで育ち、大学入学時に初めて日本という国に住むことになった。そしてこの国のセックスレスという概念に非常に驚いたのだという。日本人のセックスレス現象はインドでも有名なようで、本大会の日本人参加者の何人かはインド人参加者から「日本は大変ね」と憂いられ、同情されたという。

Pacher 氏は、「現代日本メディアにおけるセックスレス現象とそのディスコース」というタイトルで発表した。女性誌・男性誌等での“専門家”によるセックスレス解消法のアドバイスを分析すると、「単純で手段的な肯定的行動の筋描き」である傾向にあるという。個人の背景は無視され、「男性」と「女性」を一般化し「男性の性欲」と「女性の性欲」という構造でセックスレス解消法が提案されるという。

筆者は、セックスレスを解消しようとするカップルではなく、セックスレスに向かっていくカップルに思いを馳せ、男（女）というのはこういうものだから……と一般化することで個人が責任を取らずに済む効果

Alice L. Pacher 氏による発表

を想像し、Pacher 氏の発表に深く首肯した。

【Youth Program】

なんと Youth Program は学会終了後に設けられていたため、筆者は聴くことができなかった。そこでプログラムを主催した福田和子氏と柳田正芳氏から、当日の様子を知らせてもらった。本プログラムは、若手同士がそれぞれの国のセクシュアリティの実情を共有し、自分たちの権利がどこまで守られているのか、よりよい環境を実現するにはなにが必要なのかを話し合う場として設定された。大会長の計らいで 30 名を超える現地のロータリー大学生が参加し、会場は満員となったそうだ。さらに、日頃彼らが抱える性に関する悩みや不満が次々と溢れ出し、用意してきたプレゼンテーション資料よりも、会場との議論、意見交換で話がどんどん進んでいくという、思ってもみない最高の進行となったという。

福田氏にとって印象的だったのは、インドでも性の健康を阻む要因が日常のあちこちに転がっているということである。例えば女性の着るべき普段着はタイトなものが多いため女性器が蒸れてトラブルを起こしたり、そのため普通の石鹸で膣の中まで洗ってしまうという問題も起きているそうだ。他にもスティグマや恥の意識によるコンドームの買いにくさ、パートナーとの性の話のしにくさなど、行政の仕組みのみならず日常にも視点を向けて議論をする必要性を改めて学んだという。

セッションの最後には、インドの女子大生が「この会の告知を貰ったとき、性の話をするなんて居心地が悪そうだなと感じた。でもここに来てみんなが話すのを聞いて、スッとしたというか、自信が持てた気がします」と述べた。福田氏はこれを聞き、開催してよかったと心から思ったそうだが、筆者は、福田氏と柳田

Youth Program の参加者（写真は山中京子氏提供）

日本からの参加者（後列右から二人目は招待講演で来日経験のあるフィンランドの倫理学者 Tommi Paalanen 氏）

南インド料理は、どれも本当においしく食べ過ぎてしまう

氏によって企画された、同世代がオープンに語る機会を、肯定的自己像という点から意義深いと感じた。

今後の学会予定

次回の性科学会は、“世界”性科学会となり、メキシコのメキシコシティにて 2019 年 10 月 12 日から 15 日に開催される。そして、その次の性科学会は“アジア・オセアニア”となるが、現状では中国が名乗りを上げているものの、今大会に出席しなかったためペンディングとなっている。

アジア・オセアニア性科学連合は、特にアジアで開催される場合、学会発表への敷居が低いので、大学院生など、初めて国際学会で発表する場としてちょうどよい。また、日本にいれば欧米の情報は入ってきやすいが、同じアジアにも関わらず、アジアのセクシュアリティの情報は入ってきにくいというのも実際であり（インドがこの 7 月に同性愛を精神疾患から外したということを恥ずかしながら私は知らなかった）。学会に参加することによって、肌でその様子をうかがい知ることもできる。次回、さらに多くの日本からの参加を期待したい。

◉ SEE（Sexuality Education and Empowerment）性教育アカデミー 2018 報告

性教育における価値と倫理

2018 年 7 月 28 日（土）、29 日（日）の 2 日間、大阪府立大学 I-Site なんば（大阪市浪速区）において、「From What to Learn to How to Lesrn（何を学ぶから、どう学ぶかへ）」をモットーに、スクール形式を抜け出し、受講者（20 名）との対話を重視したプログラムの「SEE 性教育アカデミー 2018」が開催された。その概要をレポートする。

はじめに

東京都教育委員会は、2018 年 8 月に都内全 624 校の公立中学校の校長を対象に学校における性教育の調査を行った。調査によると 9 %にあたる 55 校が、避妊法や人工妊娠中絶など中学の学習指導要領に示されていない内容について授業で指導している、する予定である、と回答している。また、「学習指導要領に示されていない内容を指導することも必要だと思う」という項目に対し、4 %が「とてもそう思う」、42%が「そう思う」と回答しているという。

この調査でも「性教育」の必要性が、学校現場で認識されていることが分かる。その一方で、「必要だが実施されていない」という現状も見えてくる。実施されていない理由の一つに、性教育を行う指導者不足がある。

SEE（Sexuality Education and Empowerment）は、10 年間続けられてきた「関西性教育研修セミナー」を発展的に解消、学校や地域社会で、これから性教育をしていきたい、あるいは立場上しなければならない人たちの育成を一つの目的として設立された。SEE 性教育アカデミーは、その設立記念講演会を 4 月 19 日（木）に大阪・梅田ガクトホールで、カナダ・ヴィクトリア大学のアーロン・デヴォー教授（社会学）を招いて「トランスジェンダーの歴史」をテーマに開催（本紙 No.88：2018 年 7 月号で報告）したが、本格的なプログラムは今回が第 1 回目になる。

性教育実践者のための性教育

SEE がモデルとするのは、ユネスコなど国連諸機関や国際学会が推奨する「包括的なセクシュアリティ教育」（CSE：comprehensive sexuality education）である。性教育と一口にいっても、その実態はさまざまである。性に関する知識を扱えば「性教育」で、網羅するトピックが多ければ「包括的」といえるわけではない。

今回のプログラムは、初学者はもちろんのこと、実践経験者にとっても包括的セクシュアリティ教育（CSE）の基盤となる価値（人権・多様性尊重など）について学び直し、スキルアップや授業研究に役に立つプログラムの提供を目指した。

2 日間にわたる第 1 回 SEE 性教育アカデミーのプラグラムおよびスケジュールは、次ページの表のとおりである。

7月28日（土）		7月29日（日）	
10:00	性教育の５Ｗ１Ｈ　東優子（大阪府立大学）	09:30	ふりかえりワーク　東優子（大阪府立大学）
10:30	人権としての性教育　小貫大輔（東海大学）	10:00	性と生殖の健康　池上千寿子（ぷれいす東京）
12:30	昼食（参加費に含まれません）	12:00	昼食（参加費に含まれません）
13:30	価値と性の倫理①　トンミ・パーラネン（セクスポ財団）通訳付	13:00	多様性・つながり・実践　土肥いつき（京都府立高校）
15:30	コーヒー・ブレイク	14:00	性の安心と安全　野坂祐子（大阪大学）
16:00	価値と性の倫理②　トンミ・パーラネン（セクスポ財団）通訳付	15:00	ふりかえりワーク　吉田博美（駒澤大学）
18:00	ふりかえりワーク＆懇親会	16:20	修了証書授与
20:30	終了	16:30	終了

第１日目　７月 28 日（土曜日）

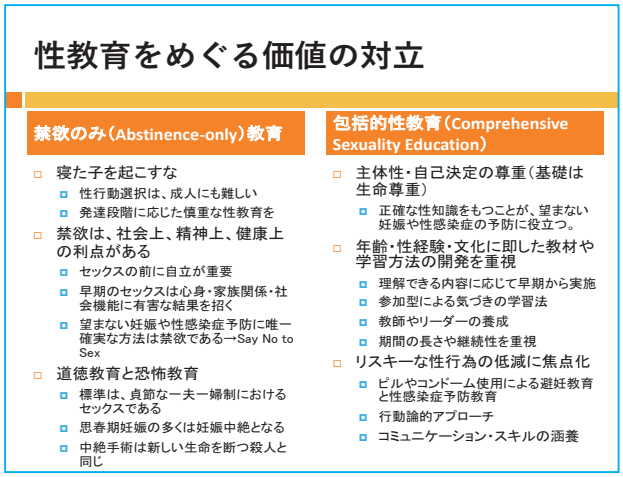
性教育の５Ｗ１Ｈ

最初の講義は、大阪府立大学地域保健学域教育福祉学類教授で、SEE の共同代表の東優子氏。テーマは「性教育の５Ｗ １Ｈ」。

性教育の５Ｗ １Ｈの５Ｗとは、「When（いつ）」、「Where（どこで）」、「Who（誰が）」、「What（何を）」、「Why（なぜ）」、１Ｈとは、「How（どのように）」である。

東氏は、「性教育の５Ｗ １Ｈ」をめぐる世界的な論争の歴史と世界の現状をを詳しく紹介・解説された。

現在の米国社会と性教育、「禁欲のみの教育」と「包括的性教育」という性教育をめぐる価値の対立の構図、その違い。また「禁欲のみの教育」の何が問題なのか。その問題点について。「性の健康と権利」に関する概念の進化と定着について過去 25 年を辿って、さらに WAS（世界性の健康学会）による「性の権利宣言」の詳しい内容など、性教育の基礎・基本に関する講義があった。



受講生からは、次の様な感想が寄せられた。

- 知識ゼロの私にとって、肩の力が抜けた導入でした。
- 今までの性教育の流れ論争（日本と米国）がわかりやすく学べた。

人権としての性教育

東優子氏に続いて、午前 10 時 30 分より「人権としての性教育」というテーマで、東海大学教養学部国際学科教授の小貫大輔氏の講義が 12 時 30 分まで行われた。

小貫氏は、ハワイ大学に留学、東氏に先んじてミルトン・ダイヤモンド教授のもとで性教育を学んだ後、ブラジルのサンパウロのファベーラ（貧民街）でコミュニティづくりに取り組んできた経験をもつ。その後、JICA 派遣専門家として自然分娩推進や子育て支援をめぐる国際協力活動に携わった。ブラジルの経験を中心に、①人権保護・擁護を目的とした教育、②性教育への、権利、について、グループワークを交えた講義を行った。

小貫大輔氏のグループワークの様子

小貫氏の講義には、

- 教育を受ける権利でなく「性教育への権利」という視点をはじめて学ぶことができた。ブラジルのムービー、感動しました。

• 座学に馴染みすぎているので、自分が参加型のワークにちょっと苦手意識をもつことに、改めて気づかされた。
• お辞儀、握手、ハグ＆キスの授業、面白く、いい内容だと思う。もし、嫌だなと思う相手と当たってしまったら、超微妙だとは思った。

などといった様々な感想があった。

価値と性の倫理

昼食休憩をはさんで、フィンランドのセクスポ財団の代表で WAS の性の権利委員会委員長であるトンミ・パーラネン氏の「価値と性の倫理」と題する講義が行われた。

トンミ氏は、ヘルシンキ大学で「哲学的な性の倫理」で博士号（哲学）を取得、性教育の先進国といわれるフィンランドを代表するセクスポ財団の代表として国際的に活動をしている。セクスポ財団は、性教育・カウンセリング・研修サービスを提供する専門組織で、その世界的な活動の様子を、コーヒーブレイクをはさんで語ってくれた。

トンミ・パーラネン氏と講義の様子

トンミ氏の講義には、多くの感想が寄せられた。そのうちのいくつかを紹介する。

• 非常に良かったです。確かに国の政策や文化が違うことは明らかなのですが、とても参考になりました。倫理と権利についてはどのように考えればいいか、またすべての性教育の根幹になっているところだと改めて理解した。野坂先生や東先生が行かれたツアーのビデオ、さり気なく流されていましたが、背景や空気感が伝わってきて、トンミさんの話とつながり、私はあれがあったのでよかったです。
• なかなかふれることができないフィンランドの最先端の性教育の話をきくことができてとても世界が広がりました。
• 新しい情報を含めて、ポジティブに性をとらえることの大切さを考えるきっかけになりました。世界の性に対する捉え方に触れられて感動、でも難しい。

トンミ氏の講演後、午後６時より１日目のふりかえりワークが行われ、その後、会場を代えて懇親会が行われた。

第２日目　７月 29 日（日曜日）

性と生殖の健康

２日目は、午前９時 30 分より開始。初日のふりかえりワークの後、特定非営利活動法人ぷれいす東京理事の池上千寿子氏の「性と生殖と健康」と題する講義が始まった。池上氏は、1982 年からハワイ大学の「性と社会太平洋研究所」でミルトン・ダイヤモンド教授のもとでセクソロジーを学び、帰国後 1994 年にぷれいす東京を設立しエイズ予防やケアの活動に従事、2012 年まで代表。池上氏は、2005 年にエイボン女性教育賞、2009 年に日本エイズ学会アルトマーク賞、2011 年 WAS 金賞を受賞している。

2005 年性の健康世界学会（WAS）の「モントリオール宣言」の詳しい解説など、池上氏の独特の語り口による講義は、受講者を感動させた。

• 性の権利宣言、モントリオール宣言、その理念を深めることができ、今の性教育実践を見直す必要性を実感しました。
• 人権って…？　を改めて考える機会となりました。中条流や川柳のお話、おもしろかったです。

池上千寿子氏と講義の様子

- 先生の問いかけについて、１つ１つ考えること、またその中で感じることを大切にして、新たな問いを持てるように意識していきたいと思いました。
- 日本の文化を知ることは、外国の教育を取り入れるときにもとても大切なことだと感じた。病いを抱えない人はおらず、病いを抱えながらも健やかに生きていくことが大切だという考え方は今後も大事にしていきたい。
- 池上先生そのものに触れさせて頂けた体験が“宝”です。パワー、知識、見聞、歴史、全て全てに圧倒されました。日本のことを知らないでいたことに気づかされたセッションでよかったです。天は人の上に人をつくらず、人の下に人をつくらず
- 「肩の力を抜こう」「自分への気づき、楽に、伝えよう」→とてもステキで印象に残りました。「戦う」んじゃなく、コツコツ「伝える」をやっていきたいです。すばらしい学びをありがとうございました！

多様性・つながり・実践

『「ありのままのわたしを生きる」ために』(JASE 刊)の著書の土肥いつき氏は、セクシュアル・マイノリティ教職員ネットワーク副代表、トランスジェンダー生徒交流会世話人の活動、またトランスジェンダーの当事者、教員として、「ありのままに生きてきた」ご自分の体験と実践活動を中心に語られた。実践活動がみとめられ、2016 年に WPATH（トランスジェンダーの健康に関する国際的な専門組織）の Outstanding Student Contribution Award を受賞している。

以下は、講義への感想。

・学校現場の生の声が聞けた。教員の積み重ねによる継続した関わりと教育との相互、このあたりのいつきさん流表現はとても胸にしみた。

土肥いつき氏の講義の様子

- 現在の「LGBT」人権学習とか研修の問題点について、まさにそう！　と強く共感しました。同和教育の歴史に学ぶ、ダブルマイノリティなど「私」を構成する要素の多層性などの重要性も実感しました。
- 学校内での取り組み、つなげ方、教育は続いていくんだということを学べました。
- 「すべての人権問題の中にジェンダーの問題が含まれている」まさにそうだと思いました。ジェンダーの問題に限らず、「人権そのもの」について改めて考えていこうと思いました。
- 知識を与えることは、時として、子どもの「知りたい」という気持ちを奪ってしまうこと、気づきを奪ってしまうことに気づき、ハッとさせられた。「子どもから学ぶ」という態度を実践していきたい。

性の安心と安全

大阪大学大学院准教授の野坂祐子氏と駒沢大学学生相談室常勤カウンセラーの吉田博美氏が２日間の最後の講義とふりかえりワークを務めた。お二人とも臨床心理士で、野坂氏は SEE の共同代表、吉田氏は SEE の事務局長である。

短い時間であったが、バウンダリー（他者との境界線）について具体的に分かりやすく解説された。お二人の講義には、次の様な感想が寄せられている。

- 境界線の話はとても深く、もう少しグループ内でも話したかったです。自分の生き方、環境によって変わるという点もすごく関わってくることなので、NO と言える、YES でもリスクを考えられる訓練が必要だと強く感じました。
- 同意のビデオはとても利用しやすい。有難うございます。短時間だったが実践に活かせる内容であった。境界線の話はもう少し聞きたかった。

野坂祐子、吉田博美両氏のグループワークの様子

１日目の講習終了後、懇親会の講習者とスタッフ

- それぞれの意見をホワイトボードに書き出してくださって、わかりやすかった。
- 「境界線や同意について、どのように伝えるとよいのか」と方法についてばかり考えていましたが、まずは自分の境界線と同意について考えていきたいと思います。
- グループワークで、一人だけでは絶対に出なかったような意見をたくさん聞くこと、そして、自分からも話すことができてよかった。
- 自分（支援者）のこととしてディスカッションができ、様々な気づきがありました。
- バウンダリーの話、ワークがとてもよかったです。グループワークで今まで話せなかった参加者と意見交換できてよかったです。

２日間の講義への感想は、以下の感想でその内容の充実さがわかる。

- 内容が非常に充実していた。理論だけではなく、実践の話もよいバランスで学ぶことができた。
- 盛りだくさんの内容でしたが、たくさんの問いを投げかけていただいたので、１つ１つ解決していきたいと思います。
- グループディスカッションなどの機会が多く、新たな視点を持つこと、新たなことに挑戦すること、自分を見つめ直すよい機会になった。

共催団体　SEE(Sexuality Education and Empowerment)
大阪府立大学教育福祉研究センター・セクスポ財団（フィンランド）
協賛団体　日本性教育協会
後援団体　大阪府立大学女性学研究センター

JASE 性教育・セクソロジーに関する資料室

資料室について

JASE 資料室は国内外の性教育、性科学等に関する文献資料を収集している開架式資料室です。文献資料の数は約６万点以上、現在も日々、増え続けています。性教育、セクソロジーに関する調査、研究のためにご利用いただけます。人間の性に関心がある方、ぜひ足をお運びください。

資料室利用方法

【閲　覧】必ず事前に電話で予約が必要です（tel 03-6801-9307）。貸出業務は行っておりません。
【開室日・時間】月～金曜日 10：30 ～ 17：30
【休室日】土・日曜日、祝日、年末年始　※この他、会議等で臨時に休室することがあります。
【コピーサービス】コピー料金は用紙サイズにかかわらず１枚 10 円です。著作権法の許容する範囲で行うものとします。
http://www.jase.faje.or.jp/pub/archive.html

収集文献・資料

統計・調査報告書、ジェンダー・フェミニズム、性教育一般・性教育の歴史的資料、国内雑誌、障害者、セクソロジー（自然科学系、人文・社会学系）、民俗学・文化人類学・風俗、性研究史・性学史、教科書・指導書・学習指導要領、幼児期～青年期、国内学術誌、国際（海外団体資料・海外学術誌）、高齢者・家族問題、文学・評論・エッセイ・文庫・新書、官公庁資料、JASE 刊行物、映像資料、個人論文、雑誌記事、新聞記事、絵本・写真集・マンガ、江幡・篠崎・朝山・石川・ダイアモンド文庫、ほか。
http://www3.jase.faje.or.jp/cgi-bin/search1.cgi

思いこみのめがね

シゲせんせーのポジティブライフ

鈴木茂義　Suzuki Shigeyoshi

公立小学校非常勤講師。14年間の公立小学校正規教諭、主任教諭を経験。
専門は特別支援教育、教育相談、教育カウンセリングなど。

第7回
「シゲ先生は僕の人財だ！」
先生のカミングアウトと同僚

ゲイであることをカミングアウトしている私でも、新たな同僚にカミングアウトすることは未だに緊張します。公立学校の先生には数年ごとに勤務先の学校が変わる定期異動があり、同僚が入れ替わります。職場の中で自分のことをカミングアウトしてある程度自分のことを知ってもらっても、その先生方はいずれ他の学校に異動します。そして新しく異動してきた先生と、また一緒に仕事をすることになります。

するとどういうことが起こるか。職場の中に、私がゲイであることを知っている先生と知らない先生が混ざることになります。新しく異動してきた先生に「シゲせんせーはご家族は？　ご結婚は？」と聞かれると、私のことを知っている先生が「それは聞いちゃダメ!!」と慌ててリアクションをするのです（笑）。

カミングアウトしないという選択肢が私の中にもあるのですが、そういったことも考えてチャンスを見つけては自分のことを話すようにしています（それが異動してきた先生との心理的距離を近づけることがあります。また、自分の生活やパートナーのことを知ってもらうのは、私は嬉しく思います）。

心理的距離と言えば、かつて同僚にカミングアウトしたときに言われたことがあります。「なるほど！ようやく理由がわかりましたよ。シゲせんせーと仕事をしていると見えない壁のような見えないベールのようなものを感じていました。何となくとっつきにくいような。それはそういうことだったんですね」。

当時の私に、同僚に対して壁を作っている意識はありませんでした。ですので同僚のその言葉を聞いたときに、「自分の仕事のエネルギーの10％くらいは、自分を隠すこと、壁を作ることに使っていたのかもしれないな」と思いました（カミングアウトした後に仕事がスムーズになったと感じたのは、その10％のエネルギーを仕事に注入したこと、心理的安全がある程度保障されたことがあるかもしれません）。

ちょうど3年前の秋、当時の勤務先の校長先生との人事考課の面談がありました。退職すると決心していた私は、当時の校長先生に自分がゲイであることをカミングアウトしました。

すると校長先生は、座っていたソファーから転げ落ちました（まるでコントのようでした）。私は「ああ、校長先生にショックを与えてしまった。余計なことを言ってしまった」と心配になりました。しかし、校長先生がソファーから転げ落ちたのには、別の理由がありました。私がゲイだったから驚いたのではありませんでした。ソファーから転げ落ちた校長先生は、そのまま華麗な身のこなしでご自分の鞄の中の何かをガサガサと探し始めました。そしてある資料を見つけて、興奮気味に元のソファーに腰を掛けました。「シゲせんせー！　実は昨日の人権研修でこれを学んできたんだ。見てくれ！」校長先生がその資料を急いでめくると、出てきたのは「LGBT」の文字でした。校長先生がソファーから転げ落ちたのは、私がゲイだったということではなく、人権研修でLGBTについて学んできたその翌日に自分の職場の先生からカミングアウトをされるというその「タイミング」でした。

そこから、校長先生相手にLGBTフォローアップ研修が始まりました（笑）。「シゲせんせーとマツコ・デラックスさんは何が違うのか？」と聞かれ、それについて丁寧に答えました。話をしているうちに校長先生が、「オランダのように日本でも同性婚ができるといいね」と言ってくれました。そして「シゲせんせーは僕の人生の人財だ。僕の知らないことを教えてくれてありがとう！」と言ってくれました。私にとっては、今も忘れられない言葉です。

校長室に入ってから、既に2時間が経過していました。校長室からなかなか出てこない私を、同僚が心配してくれました。校長室を出ると、同僚から集まる熱い視線（気にしないふりをしてすごく気にしている）を感じながら、職員室の自分の席に戻りました。

自分を受け止めてくれる同僚がいること。そのことに感謝して明日も働こうと思います。

多様な性のゆくえ

One side／No side［18］

宮田 一雄
みやた　かずお
ジャーナリスト。公益財団法人エイズ予防財団理事、特定非営利活動法人エイズ＆ソサエティ研究会議事務局長。

ギャグにできない事態への対応

2017年4月にスタートしたこのコラムの1回目のタイトルは『米トランプ政権の笑えないギャグ』だった。米国のドナルド・トランプ大統領は、就任からわずか3日後の2017年1月23日、メキシコシティポリシー復活の大統領覚書に署名している。

妊娠中絶を支援する組織には米国の国際援助資金を提供しないという政策で、1980年代のレーガン政権時代に採用され、「グローバル・ギャグ・ルール（世界口封じ令）」とも呼ばれてきた。民主党が政権を取ると廃止され、共和党政権になると復活する政策なので、署名自体は目新しいことではない。

ただし、これまでは家族計画資金に限られていた適用対象が、米国の看板政策である米大統領エイズ救済緊急計画（PEPFAR）を含め、保健分野の二国間援助のほとんどすべてに広げられたことから、セクシャルヘルスやHIV/エイズ分野のNGOには影響の拡大を懸念する声が上がっていた。

そのトランプ政権の発足から1年半を経た今年7月、オランダのアムステルダムで開催された第22回国際エイズ会議（AIDS2018）では、最終日の27日に『Bound and gagged：Exposing the impact of the expanded Mexico City policy（縛られ、サルグツワをはめられ：拡大版メキシコシティ政策の影響をあばく）』というセッションが開かれている。

タイトルからしてかなり激しい。2017年4月時点では、政権発足後最初の100日も過ぎていないので、影響を予測しきれない面もあった。だが、1年半もするとさすがに悲鳴が上がりだしたということだろう。

AIDS2018組織委員会の公式プレスリリースからその影響を紹介しよう。セッションの直前に発表されたリリースなので、データは会場で新しいものに差し替えられる可能性もあるという但し書きが付いているが、全体の傾向は要領よくまとめられている。一応、私家版で日本語仮訳も作ったのでこちらをご覧ください。
http://miyatak.hatenablog.com/entry/2018/08/02/224644

日本にいると、米国の援助を受けているわけではないので危機感があまり伝わってこないが、米国から資金を得て、何とか女性と子供の保健医療やHIV/エイズ対策を支えてきた低中所得国には深刻な事態である。

セッションでは、PEPFARの資金で活動していた数百にのぼる組織が影響を受けていると報告された。性と生殖に関する健康サービスとHIVサービスを統合したかたちで提供することが困難になり、プログラムの縮小に追い込まれたところもある。

一方で、アフリカ数カ国の調査事例から、各国の国内法で保健医療提供者に対し妊娠中絶に関するカウンセリングや専門医療機関への照会を積極的に行うよう定めている場合には、拡大版ギャグ・ルールの適用を免れることもあるという。

たとえば南アフリカでは、国民健康法と倫理ガイドラインでインフォームドコンセントを強く求め、保健医療提供者にカウンセリングと中絶サービスの照会を義務付ける判例法もあることから、適用を除外されていた。調査にあたったエイズ研究財団（amFAR）の研究者らは、南アフリカの法律が政策提言活動のひな型として活用できるだろうと指摘している。

これは私の想像だが、さすがに米国政府も大統領の息のかかった職員ばかりで構成されているわけではなく、現場レベルでは何とか適用除外を正当化できる理由を探している職員も多いのではないか。

そうなると、援助対象国の国内法をその理由にすることも十分に考えられる。逆に言えば、人権や人の生死に関わる健康問題について、理屈の通った制度や法律を整えておくことが、国の危機管理対策として極めて重要かつ有効だということでもあるだろう。

アムステルダム会議には米民主党のバーバラ・リー下院議員も参加していた。先ほどのプレスリリースには、そのリー議員が『極右主義者をなだめるために、女性と子供の保健医療ケアを人質にとるなどということは許されません』と厳しく拡大版ギャグ・ルールを非難するコメントも紹介されている。

［茨城県立波崎高等学校］（上）

学年ごとに取り組む性教育講話の実践

茨城県の最東南端に位置する神栖（かみす）市は、鹿島臨海工業地帯の中心であり、プロサッカーチームの鹿島アントラーズのホームタウンとしても知られている。温暖な気候と自然に恵まれ、農業や漁業も盛んだ。その神栖市にある茨城県立波崎高等学校では、教職員全員で協力して性教育を行っていると聞き、訪ねた。

学校全体で毎年継続的に実践

茨城県立波崎高等学校は、鹿島臨海工業地帯を担う人材育成を目的に、昭和39年設立された。普通科、機械科、電気科、工業化学・情報科があり多くの卒業生が地域の企業へと就職しているという。

その波崎高等学校が、性教育講話の取り組みを毎年継続して行うようになったのは、平成20年に茨城県教育委員会学校保健・学校安全研究推進校になったことがきっかけだという。さらに平成23年には、性教育を含む学校保健の研究発表により、学校保健及び学校安全文部科学大臣表彰の受賞校になり、学校全体で性教育に取り組むようになったとのこと。

学年ごとの指導が実現

現在、波崎高等学校の性教育の取り組みの中心となるのが、津嶋純子養護教諭。

「平成19年、小学校、中学校の義務教育を経て本校に赴任し、その翌年にこれまで単発的に行ってきた性教育の取り組みを毎年継続して行うことになりました。そのときに意識したのは、性教育をできるだけ少人数で行いたいということでした」と当時を振り返る。

当初の性教育の講話は全校生徒が体育館に集まって行われていたという。

「ところが、全校生徒が集まると、後ろのほうの生徒はパワーポイントの画面が見えにくいのです。そして何より人数が多いと、せっかくの講話も人ごととして聞いてしまうことが心配でした。性教育の大切さを生徒により丁寧に伝えたい。学年ごとの取り組みを実践したいという思いがありました」と津嶋養護教諭。

茨城県立波崎高等学校
校長　西谷尚衛
生徒数　577名（男子426名、女子151名）
教職員数69名
（2018年7月現在）

校長や津嶋養護教諭をはじめとする保健厚生部のメンバーで話し合って、学年ごとの授業を実践することに至ったという。

「どの学校も同じだと思いますが、本校も学校行事が多く、性教育の時間を確保するのはなかなか大変です。2年生は、ロングホームルームの時間を使って行いますが、1年生と3年生は、2年生の修学旅行中は比較的時間を取りやすいので、その期間の特別活動の時間を使って取り組むことになりました。」（津嶋養護教諭）

学年ごとに授業に関連したテーマを設定

保健厚生部のメンバーは、全部で11名。学校安全（防火防災担当）、学校環境（環境整備担当）、保健衛生（保健全般）、教育相談（特別支援等）の4部門で構成されている。

「性教育講話」は、この保健厚生部が中心となって取り組み、各学年の担当教諭と話し合って、学年にあったテーマや取り組みの目標を決めて行きます」。

例えば、1年生の道徳では『命を大切にしよう』というテーマで授業行っている。そこで、道徳の授業と関連して考えられるように『生と性について考えよ

平成 30 年度の「性教育講話」実施内容

学年	場所・時間	テーマ	内容	講師
1 年生	1 ～ 5 校時。 クラスごとに多目的教室に集合して行われる。	生と性について考えよう。	・生命の誕生 ・10 代の妊娠・人工中絶 ・性感染症を視覚的にとらえる。 ・life Plan を考えよう。	国保旭中央病院 助産師
2 年生	6 校時。体育館。	性の役割・性感染症・AIDS・妊娠について知ろう。	・エイズって？ ・カップルの寸劇で考える「○×クイズ」 ・life Plan を考えよう。	国保旭中央病院　看護職員
3 年生	4 校時。体育館	デートＤＶ ～お互いを大切にする関係とは？～	・デートＤＶとは？ ・暴力とは？ ・恋愛ってどういうもの？ ・もし被害に遭ったら？	神栖市市民協働課ＤＶ被害者支援民間機関「アウェア」

う』というテーマに決まった。また、２年生、３年生に関してはふだんの保健体育の授業の補足・復習として性教育の内容を考えたい。そんなことから、２年生は『性の役割、性感染症・エイズ・妊娠について』、３年生は『デートＤＶ』をテーマにした。

「性教育講話の講師の先生は必ずしも毎年同じではないのですが、千葉県旭市の国保旭中央病院の先生方にはずっとお世話になっています。クイズ形式を盛り込むなど楽しくお話をすすめてくださるのです。ここ数年は、１、２年生は国保旭中央病院職員を講師に招き、３年生は神栖市市民協働課の協力を得て DV 被害者支援「アウェア」から講師を招いて講話をしていただいています」(津嶋養護教諭)。

講師へのアポイントメントや連絡調整係は、津嶋養護教諭が一手に引き受けて行い、スムーズに進行するように心を配る。

１年生はクラスごとに取り組む

「少人数での取り組みをしたい」との津嶋養護教諭の希望がかなって、２年前からは、１年生はクラスごとに性教育講話を行う試みが始まった。

「これまで私は２年生の修学旅行に同行していましたが、２年前から看護師さんが同行することになりました。私は学校に残りますので、絶好のチャンスと思いまして、クラスごとの授業を試みています」と津嶋養護教諭。

１年生は５クラスあるので１校時～５校時の間に各クラスごとに多目的室に集まって性教育講話の授業を受けるのだという。クラスごとの指導については、「講話を５時間続けて行うことになりますから、講師の先生には大変なご苦労をおかけしています。これも講師の先生方のご協力があってこそ、と感謝しています。また各学年の先生方や上司の協力もあり、実現できたことだと思っています」と津嶋養護教諭は語る。

２年生の性教育講話の様子

生徒たちの反応も上々

授業の準備など学校内の細かい打ち合わせは、空き時間や放課後に保健室に先生方が来室して行われ、性教育講話当日は、学年の先生方が加わり全員で分担して協力し合ってすすめていく。毎年、多少の微調整はあっても基本的に各学年が学ぶテーマは変わらない。それゆえ「全生徒が３年までの間にすべての講義を受講できるという。

「講話は、講師の先生方がいろいろと工夫して、クイズあり事例ありと変化に富んでいるので、生徒たちも興味津々で聞いています。講話を聴いたあとに生徒たちに感想文を書いてもらいますが、感想文を読むと生徒たちの反応もよく、励みになります」と津嶋養護教諭。

具体的にはどのような授業が展開されるか。次回は、学年ごとの性教育講話の様子を紹介する。

（取材・文　エム・シー・プレス　中出三重）

BOOK GUIDE
今月のブックガイド

オレは絶対にワタシじゃない

遠藤まめた著
はるか書房
定価 1500 円＋税

「性別をめぐる冒険家」の旅

トランスジェンダーというのは、それを自身に経験したことがないものにとっては、やはり不可思議な現象である。

LGBT の G（ゲイ）である私も、幼少時から「女性的」ということでずいぶんいじめられたものだが、自分の身体に違和感を感じたことはないし、ましてや外性器とは反対の性別アイデンティティを抱いたことなどない。というか、私の場合、性別アイデンティティというのがいま一つピンとこない。昨今いわれるような X ジェンダー（男であることにも女であることにも違和感がある）というのでもなく、性別に関しては軽く、「まっ、男性器がついてるから（少々女っぽいけど）男だよね」くらいな「認識」を抱いているにすぎない。そもそもみんな、そんなに強烈な実感を性別に抱いているものだろうか、と。

著者は（女性として生まれたが心は男性だという実感を抱く）FtM のトランスジェンダー。幼少の頃からそのことで自分にも、周囲にも違和感を抱えざるを得なかった 31 年間の半生を、ここで綴っている。

虎井まさ衛氏の『女から男になったワタシ』(1996) 以来、私はその手のライフストーリーに多く接してきたが、「性別違和」というのがこれで初めて腹に落ちた気がした。すぐれた文芸作品が読者に登場人物の心持ちを追体験させるように、遠藤氏の文体は読み手の性別感覚をもトランスさせる！

「夜になると、行きたい方面とは逆に暴走していく急行列車にまちがって乗ってしまい、そこから降りられないという夢を見た。泣いても笑っても、思春期の身体は変化していく」

こうした切実さのなかにもユーモアを忘れない表現に、読者は微笑みつつ共感を深めていくのだ。

遠藤氏はその青春を一つの「冒険」であったと振り返る。入学した女子校では、色気づいて「女」になっていく友だちを横目に、「くそー。どいつもこいつも、カルトにハマりやがって……」と嘆き、思春期にトランジェンダーの情報に触れたはいいが、望みの身体を手に入れるのはまるでヒマラヤ登山の計画をひとりで全部するようなものではないか！　とおののき、大学時代、ニューヨークへ LGBT の問題を考えるべくツアーに行き、アメリカでもいまだ問題は山積であることに目を開かされ、台湾では、市役所で見つけた「性別不問トイレ」の多様性に深く感銘を受け…と、行く先々で立ち現れることどもを繊細に、そして丸ごと受け止めていく様は、冒険家そのものである。

現在、遠藤氏は企業で働きながら人権活動に日々取り組んでいる。その一つである「トランスジェンダー生徒交流会」は、性別違和のある子どもたちと、大人が一緒にご飯を作って食べる親睦の集まりだという。そこでの自身を見つめる描写は、実に聡明だ。コロッケなどを子どもらと調理し、みんなでワイワイ食べる傍ら、

「…トランスジェンダーかもしれないわが子を初めて会に連れてきたという母親が、『どうぞよろしくお願いします』と深く頭を下げていて、その後ろを、子どもたちがゴキブリを追いかけてキャーキャーと走っていった。

カオスのなかで、私たちは差別と闘っている」

かつてウーマンリブの田中美津氏は、自らの行動を「取り乱し」だと表現し、整理のつかないおのれの感情やら矛盾やら…をそのまま抱え込んで差別と闘っていくと宣言したが、遠藤氏もまた、差別と対峙する自分が一個の混沌であることを認識している。たぶん、その前提さえ踏み外さなければ、反差別への挑戦は豊かな経験となるはずだ。

自分を問い続ける彼の冒険譚の続きを、ぜひとも読みたい！　と願う読後感であった。（作家　伏見憲明）

研究会、研修会等の情報を下記まで、郵送または、
Fax03-5800-0478でお寄せください。
〒112-0002　文京区小石川2-3-23春日尚学ビル B1
日本性教育協会「JASE ジャーナル」係

▶▶ 11月3日（土・祝日）13：00～16：30 ◀◀

東京HIV と性の教育セミナー2018 ／東京性教育研修セミナー2018

HIV と性の教育　UPDATE ！

いまどきのエイズ・性感染事情と新たな取り組み

内　容　文部科学省がなんと 17 年ぶりに「教職員のための指導の手引き」を改訂しました！

プログラム１　性教育の UPDATE ～それぞれの立場から

◉改訂委員の立場から――池上千寿子
改訂の背景、改訂のポイントと課題―教育現場では何をいかに UPDATE すればよいのか？

◉当事者・外部講師の立場から―加藤力也
子どもたちに伝えたいこと――ゲイ、HIV 陽性者として子どもたちに語った経験から

◉支援者の立場から―生島　嗣
学校教育の落とし穴、LGBT の性の健康――性の健康の啓発と調査活動の現場から見えてくる現状と課題

プログラム２　グループワーク～「手引き」の活用と工夫について意見交換

会　場　日本性教育協会セミナールーム（東京都文京区小石川 2-3-23　春日尚学ビル B 1）

参加費・問合せ先等　主　催：特定非営利活動法人ぷれいす東京　協　賛：日本性教育協会
参加費：1000 円（「教職員のための指導の手引き～ UPDATE ！ エイズ・性感染症」付き）・定員 30 名
対　象：教育現場で性教育／保健教育を実践している方、教職員、養護教諭、保健師、助産師など
申込み先：http://ptokyo.org/news/10029 のフォームよりお申込みください。問合せ先：E-mail　office@ptokyo.org　TEL03-3361-8964

▶▶ 12月2日（日）～4日（火） ◀◀

第32 回日本エイズ学会学術集会・総会

ゼロを目指して今、できること

Toward “Zero”- What I can do.

内　容
- 会長招聘講演　満屋裕明〈国立研究開発法人国立国際医療研究センター研究所〉
- 特別講演　Robert W. Shafer〈Division of Infectious Diseases Dept of Medicine,Stanford University〉他
- シンポジウム・共催シンポジウム
- ワークショップ　　ポジティブトーク
- 日本性感染症学会と日本エイズ学会の合同シンポジウム
- メモリアルサービス
- 市民公開講座　等

詳細はホームページをご覧ください（https://www.c-linkage.co.jp/aids32/）

会　場　大阪国際会議場／大阪市中央公会堂

問い合わせ先等

運営事務局／株式会社コンベンションリンケージ（〒 531-0072 大阪市北区豊崎 3-19-3 PIAS TOWER 11F）
TEL：06-6377-2188　E-mail：aids32@c-linkage.co.jp
学術事務局／独立行政法人国立病院機構大阪医療センター（〒 540-0006　大阪市中央区法円坂２丁目 1-14）

東京性教育研修セミナー　2018

主催 一般財団法人日本児童教育振興財団内　日本性教育協会
「第８回青少年の性行動全国調査」委員会

●若者の性行動はさらに消極化へ!!

青少年の性行動の不活発化と多様性

～「第8回　青少年の性行動全国調査」からみえてくる若者像～

日本性教育協会（JASE）では、1974年よりほぼ６年おきに全国の青少年の性行動・性意識について調査してきた。今回は2017年度に行われた第８回調査の分析をもとに、性行動と性意識など青少年の性の実態の現状を報告する。そのなかで、この43年間における性行動の変容、生活環境の変化と交友関係のあり方、性的被害や性教育・性知識の受け止められ方などについて検討を行う。

また、日本とほぼ同一の質問紙で調査された中国の青少年の性行動・性意識の実態も報告する。

2018年
11月23日（金・祝日）
13：00～17：20
（受付12:30）

基調講演　第８回　青少年の性行動全国調査の概要
片瀬　一男（東北学院大学教養学部教授）

講演①　青少年の性はどう変わってきたか
～性行動・意識の消極化と分極化
林　雄亮（武蔵大学社会学部准教授）

講演②　性行動と性規範・ジェンダー規範の関連性を探る
石川　由香里（活水女子大学健康生活学部教授）

講演③　青少年の性暴力～現状をとらえる方法
羽渕　一代（弘前大学人文社会科学部教授）

講演④　性教育はどう役に立っているのか～性に対する態度と知識
永田　夏来（兵庫教育大学大学院学校教育研究科講師）

特別講演　中国／北京・上海・広州の青少年の性意識と性行動調査
楊　雄（上海社会科学院社会学研究所所長）
裘　暁蘭（上海社会科学院社会学研究所研究員）

ディスカッション・Q&A
若者の性行動は日本・中国でどう変化してきたか？
座長・加藤　秀一（明治学院大学社会学部教授）＋上記７名

至 JR 水道橋駅　東口より徒歩 15 分

会　場　**一ツ橋センタービル 12 階**（東京都千代田区一ツ橋 2-4-6）
東京メトロ半蔵門線／都営新宿線／都営三田線「神保町」駅
A8 出口　徒歩１分

対　象　教育、保健、看護、医療関係者、学生、「性」「性教育」「セクソロジー」に関心のある方。

参加費　1,000 円（当日受付でお支払いください。資料代含む）

申　込　JASE ウェブサイトの申込ページ
http://www.jase.faje.or.jp/support/jasstokyo.html
のフォームからお申込みください。

定　員　100 名（先着順・予約制）

至竹橋駅　徒歩８分

JASE
一般財団法人日本児童教育振興財団内　日本性教育協会事務局
〒112-0002　東京都文京区小石川 2-3-23　春日尚学ビル B１
〈お問い合せ電話〉03-6801-9307

若者の性にかかわる行動、規範意識、情報源などが、
この６年間でどのように変容したかがわかる。
若者の性を理解するための必須の資料！

緊急出版 !!
全国調査による最新のデータ

青少年の性行動

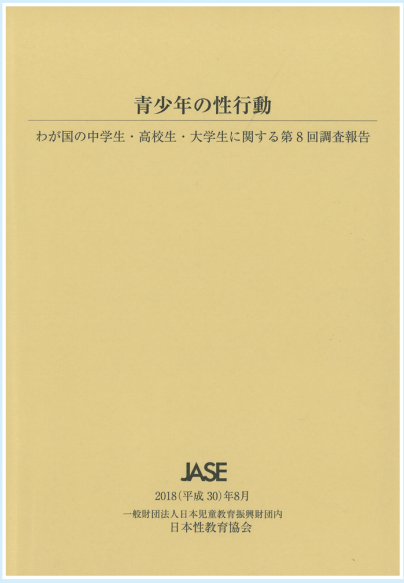
わが国の中学生・高校生・大学生に関する第８回調査報告

編集／一般財団法人日本児童教育振興財団内 日本性教育協会（JASE）
「第８回青少年の性行動全国調査」委員会

日本性教育協会では、1974 年に第１回調査を開始し、以来ほぼ６年ごとに「青少年の性行動全国調査」を行ってきました。日本の青少年の性行動や性意識の変化を全国規模で把握することができる貴重な調査データとして国内はもとより国際的にも認知されています。

このたび、2017 年６月から同年 12 月にかけて実施した「第８回青少年の性行動全国調査」の単純集計がまとまりましたので、一次報告として刊行しました。主要な結果「デート経験」「キス経験」「性交経験」などの解説と、全質問の中学生・高校生・大学生の男女別集計結果が掲載されています。

※なお、今回の調査に詳しい分析を加えた報告書「『若者の性』白書 第８回青少年の性行動全国調査報告（仮題）」につきましては、2019 年刊行予定です。



A4 判　80 ページ

頒価：1,000 円

送料は別途。詳しくは JASE ウェブサイトで確認してください。

JASE ウェブサイトよりお申し込みいただけます！

http://www.jase.faje.or.jp/pub/seikoudou8.html

※インターネット環境にない場合は、JASE(電話 03-6801-9307）までお問い合せください。

●本書に関するお問い合せにつきましては、下記までお願いいたします。

一般財団法人 日本児童教育振興財団内 日本性教育協会（JASE）
〒 112-0002 東京都文京区小石川 2-3-23 春日尚学ビル B１
TEL 03-6801-9307　　FAX　03-5800-0478
Mail　info_jase@faje.or.jp　URL http://www.jase.faje.or.jp

JASE